The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ウィーン工房と若きデザイナー : JUNGWIEN
Author(s)	濱野, 節朗
Citation	デザイン理論. 1996, 35, p. 86-87
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53156
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ウィーン工房と若きデザイナー
―JUNGWIEN―

濱野節朗／京都工芸繊維大学

1903年に設立されたウィーン工房は，J. ホフマン，K．モーザ，C. O. チェシュカらウィーンセセッションの中心的なメンバーで運営されていた。のみならず，彼らは工房の主宰と並行してウィーン美術工芸学校でも教鞭をとりながら優れた後身の育成をめざしていた。そして工房の設立期には彼らの薫陶を受けた学生の中から優秀なデザイナーが育っていた。これらの学生はまさに多感な青年期をウィーンセセッションの真っ只中で過ごした世代でもあった。この「若きデザイナー」達は，1880年から1890年にいたる十年間に誕生した世代で「ウィーン様式」の正当なる後継者として工房の内外に位置しながらかつての師匠たる J. ホフマンらの工房活動を支えたのである。

今日，J. ホフマン，K. モーザらの業績は高く評価され，かつ様々な角度から研究がなされて我が国にも紹介されるようになったが，工房の設立期に活動を展開したこれら「若きデザイナー」の仕事に関しては必ずしも知られていない。それに比べて，ウィーン工房中期から後期に華々しく活躍した女性デザイナー達の仕事は，今日ではアールデコ期の一翼を担ったことでも知られ実際に多くの出版物にも紹介されている。彼女らもまたウィーン美術工芸学校で J. ホフマンらの薫陶を受けたのであるが，もうひとつ新しい世代に当る。

彼ら「若きデザイナー」を JUNGWIEN と命名したのはダルムシュタットの A. コッホである。A. コッホは当時、ヘッセン州の著名な美術評論家であるとともに有名な美術工芸誌「ドイッチェクンスト　ウント　デコラシオン」の編集をてがけ，設立間もないウィーン工房の仕事を多くの頁をさいて紹介していた。さらに彼は自らの叢書を企画出版し美術工芸の振興を図ってきたのだが，この A. コッホ叢書第12巻を一冊ささげてウィーンの「若きデザイナー」の仕事を紹介している。

さらに，ウィーンでは美術工芸学校の校長 F. b. ミュルバッハが監修したグラフィック誌「ディ　フレッヘ」に彼らの仕事を見ることができる。このグラフィック誌は美術工芸学校の教授陣のみならず卒業生，在校生の習作を掲載したもので華麗な「ウィーン様式」を如実に示すものである。

当時これ程の脚光を浴びた「若きデザイナー」であるが「ウィーン様式」の衰微とともに歴史のかたすみに隠されていったようである。忘れ去られた原因のひとつには，あまりにも強すぎる J. ホフマンらの影響下にあって没個性的な亜流と見なされたためではなかろうか。しかし，今日彼らの仕事を細かく個別に見てゆくと決して没個性などではないことに気づくのである。ただ彼らのうちの数名に関しては激変する時代，特に第一次世界大戦によって若い才能を伸ばすことなく消えざるを得なかった不幸を指摘することができる。実際には戦場で亡くなった戦死者の他に，祖国オーストリアの分裂によって消息不明になった者や亡命せざるを得ない者もあったのである。それに比べると，彼らの次に続く世代は大戦後の平和な時代にあっておおいに才能を伸ばし華麗な仕事を残したのである。

今回の研究発表では，この「若きデザイナ

ー」の世代をとりあげ，かつ今日あまり知られていない作家を中心に個人別に紹介した。

❖

ウィーン工房の有名な絵はがきシリーズに強烈な個性をもって風刺の作風を残しながらも戦場に散ったM. ユング。同じく，開戦間も無い戦場に消えたU. ヤンケは愛らしい作風のポスターを残している。さらに，後のドイツ表現派を思わせるスキャンダラスな作風のR. カルバッハ。逆に，ほのぼのとした作風でウィーンの四季を描いたC. クレネックやK. シュエッツ。華麗な花のスタイルを得意としたG. マリッシュやF. K. デラビラ。後の工房にあって後身の指導に当ったF. V. ツューロウ，A. ネハンスキーはともにウィーン美術工芸学校でも教鞭をとりJ. ホフマンを補佐している。とりわけF. V. ツューロウは日本の形染めの影響下に，切り絵風の作風でもってすばらしいカレンダーのシリーズを残している。F. ザイマーとM. ケラーも工房に残り，特にM. ケラーはファッション画の領域で活躍しながら彼女に続く女性デザイナーの世代にインスピレーションを与えた。その他，ポスターや蔵書票に優れたデザインを残したA. クリンク，J. ディベッキーなどが揚げられる。

なお，今回の発表では触れなかったが，今日では良く知られているO. プレッシャー，E. J. ウィマー，O. ココシュカ，D. ペッヘ，E. J. マルゴルド，K. ウィッツマンらもこの世代にあたる。

今回の研究発表で作品を紹介したJUNGWIENの人々は下記のとおりである。

♣ 行方不明
★ 戦　死

FRANZ KARL DELAVILLA	(6/12/1884～2/8/1967)	
FRITZ DIETL	(19/10/1880～)	♣
JOSEFU DIVÈKY	(28/9/1887～4/1951)	
URUBAN JANKE	(12/2/1887～1914)	★
MORIZ JUNG	(22/10/1885～11/3/1915)	★
GUSUTAV KALHAMMER	(16/6/1886～30/4/1920)	★
RUDOLF KALVACH	(22/12/1883～13/3/1932)	
ANTON KLING	(26/11/1881～21/9/1963)	
CARL KRENEK	(7/9/1880～15/12/1948)	
MELA KÖHLER	(18/11/1885～15/12/1960)	
GUSUTAV MARISCH	(17/7/1887～)	♣
ARNOLD NECHANSKY	(17/3/1888～25/3/1938)	
KARL SCHWETS	(4/7/1888～21/3/1965)	
FRITZ ZEYMER	(7/12/1886～2/3/1940)	
FRANZ VON ZÜLOW	(15/3/1883～26/2/1963)	